

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1. 参加者 大川、湊、服部 (3名)

2. 山行スタイル バリエーション 雪山アルパイン

3. 目的 厳冬期の八ヶ岳雪山バリエーションルートに登攀する

4. 山城/ルート 八ヶ岳 小同心クラック

5. 交通手段 車

6. 行動記録 赤岳鉱泉からの記録

<入山日 2023年1月7日 ~ 下山日 2023年1月9日>

第1日 1月7日 13:00 赤岳鉱泉発→14:45 大同心基部→15:15 小同心クラック 取付
(下見) →16:30 赤岳鉱泉 (行動時間 3時間 30分)

第2日 1月8日 4:30 起床→5:50 赤岳鉱泉発→大同心基部 7:30→8:00 小同心クラック取
(本番) 付→11:00 小同心の頭 →11:45 横岳→12:00 硫黄岳山荘→12:45 硫黄岳
→赤岩の頭→14:40 赤岳鉱泉 (行動時間 計 8時間 50分)

7. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか?

予定通り。

b) 事故に繋がりそうな要因 (ヒヤリハット) が発生したか?

なし

c) パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか?

なし

8. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記す

・大同心基部から小同心クラック取付きまでは細いバンドのトラバースで、下見の時は午後で気温が高く、雪が緩くなっており、足元が固まらず、ややこしい状況だったが、なんとか予定時間内に取付までにトレースを付けることができた。

・小同心クラックのクライミングはホールドは豊富にあったが、壁が立っていること、手袋でのホールド感触鈍かったこと、寒さ、高度が高いこと (2700~2800 付近) でなかなか厳しかった。～事前トレーニングのおかげでしのげたと思う。

・小同心クラックは基本的にはチムニーの登攀で、ルートファインディングは分かりやすかった。ただルートを外すと非常に厳しくなると思う。

・今回はメンバーとのコミュニケーションもよく、事前のトレーニングもできたので、順

調に登ることができた。湊さん服部さんありがとうございました。

報告者氏名 大川 肇

2023年1月13日

9. 感想

服部さんの感想

1日目：小同心の取り付きの確認

大同心沢から大同心基部まで上がり、小同心へトラバース
このトラバース、事前に聞いていたがなかなかスリリング！

2日目：小同心クラック→硫黄岳周回

6時赤岳鉱泉出発し硫黄岳のモルゲンを見ながら大同心基部へ
前日と違いトラバースの雪は落ち着いていて歩きやすかった。

さあ、小同心クラック、スタート！

冬用の手袋で岩を掴むって・・・分かってたけど感覚が鈍くて本当に登りにくい。

クライミングしていない時は寒いって・・・分かってたけど本当に寒い。

小同心クラック、ホールド沢山あるので登りやすいって・・・聞いてたけど、
いや～スリリングでしたよ(;・̀・´)

1P：大川さん 2P：湊さん 3P：私の順番だったが3Pの始めが不安だったので大川さんに代わって頂き、3Pの途中からリードをさせて頂いた。少しでもリードの経験が出来、嬉しかった。

小同心の頭に到着した時は緊張感から解放され、陽も当たり楽園のように思えた。

そして周囲の素晴らしい山々を堪能♪

あ、まだ危険箇所ありました。

そこからコンテで横岳近くの登山道まで細いトラバース。ここもスリリングで

先行者のトレースがあったから良かったが、無ければ雪のトラバースを踏み抜きの心配をしながら進まなければならなかった。

硫黄岳への一般道へ出ると富士山がハッキリ見える稜線上で昼食♪

山々を見ながら、小同心クラックを無事登れたこと、お天気よく阿弥陀岳～硫黄岳の景色を堪能できたこと、充実した二日間だったなと振り返った。

ご一緒して頂いた大川さん・湊さん本当にありがとうございました。

夜の宴会も楽しかったです🍷皆様、ありがとうございました。

湊さんの感想

記録を読んでいると、ガバもあるし支点も取れる。少ないながらアイゼントレも直前にしているので何とかなるだろうと思っていたら…。

初日の、取りつき偵察で心が折れそうになりました。危険でしかない！大同心から小同心までの取付きは雪がグズグズで、いつ足元が崩れるかもしれない恐怖感でいっぱい。帰りのクライムダウンも、ビクビク。明日のことを考えると眠れませんでした。

翌日、早朝出発のため、雪が締まっていて足元は昨日ほどひどくない。1Pは大川さん。セカンドでも、足も手も不安定で怖い。2Pはリード。思ったより支点がなく（探せなかった？）落ちられないクライミングが続く。クラック上部で次の一手が出ずに、本当に泣きそうになった。結局「エイ、ヤァ」で登ったが厳しかった。次のチムニーを登るかどうか迷ったが、極上の支点の魅力に勝てずルートを切った。

天候に恵まれ、登山道に出てからは、達成感と無事（生きて）帰れる事への安心感で、終始笑顔だったと思う。大川さん、服部さん今回は本当にありがとうございました。今回の山行は、自分にとって本当に有意義な山行となりました。



